

【地域の概要】

- ・岐阜県のほぼ中央に位置し、市域は南北50km以上、東西30km以上の県土の約10%を占める広範な地域である。
- ・農地面積は2,820ヘクタールある。市内を17地区(小学校区単位)に分けて地域計画を作成した。
- ・農業委員19名、農地利用最適化推進委員19名が活動している。

①取組開始前の状況や課題

- ・以前は紙ベース（GIS写真）の地図等で農地パトロールを実施していた。
- ・令和4年度に国費にて導入、5年度に農業会議からの貸与で、38名の農業委員、推進委員全員がタブレットが常時使える体制となった。
- ・委員等は高齢の方が多く、操作方法に苦慮していたため、市担当（事務局）が講師となり令和5年度に座学1回・現地研修1回のみならず、令和6年度にも現地研修を1回実施した。

②取組内容

目標地図（案）作成に係る農地利用状況確認の実施

- ・郡上市の地域計画区域＝農振農用地であるため中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金の対象農用地以外の農用地にフラグを付け、その対象農用地を巡回し、「作付け中」「再生困難」「遊休農地（緑）」「遊休農地（黄）」など段階に分け色付けを実施した。

農地利用状況確認の実施（令和6年7月～11月）

- ・担当地区ごとに委員と推進委員でペアを組み、都合の良い日程で現地確認を実施した。当初は事務局も同行してフォローした。
- ・入力した調査結果は、事務局が確認できることから、調査状況が遅れがちな地域については事務局から期間内での調査終了を促した。

目標地図（案）への反映

- ・11月にはフラグを付けた15,563筆のうち13,273筆の農用地についてパトロールが終了し、目標地図（案）の対象農用地から再生困難な農地を除外するなど反映する事ができた。

③今後の展開と方向性

効率よい利用状況調査の推進

- タブレットの利用が初めてのため操作に不慣れな委員が多かったことから、利用機会を増やしタブレット操作に慣れてもらう。
- 郡上市は山間地が多く、一部タブレットの通信状態が悪い地域がある事が今後の検討課題である。